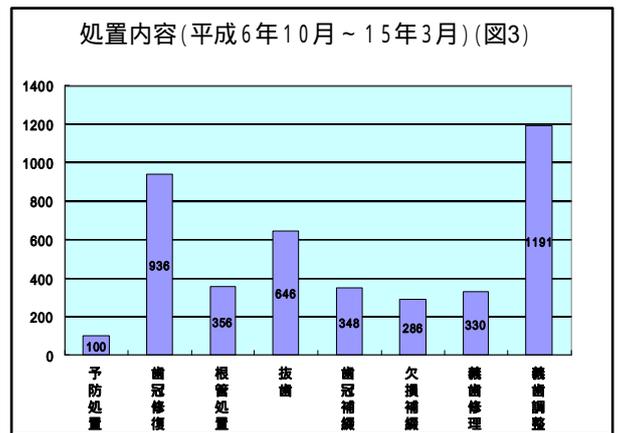


10年間の診療内容統計では、保存処置は、歯冠修復 936本(インレー210本、レジン充填 726本)、小窩裂溝填塞などの予防処置 100本、根管処置 356本(抜髄 154本、感染根管 155本、即充 36本、失即充 11本)であった。

外科処置は、抜歯 646本(永久歯 491本、乳歯 155本)、補綴処置として歯冠補綴 348本、欠損補綴 286装置(部分床義歯 128、総義歯 105、ブリッジ 53)、補綴物修理 330装置(増歯 78、リベース 179、破折 52、クラスプ新調 21)、義歯調整(指導)1,191装置であった(図3)。



4. 考察

センター診療所開設よりの利用状況は、延べ人数 5,037名で、来院者の平均年齢は年々高齢化傾向にある。初年度平均年齢は 49歳であったが、現在では 59歳である。障害別の平均年齢は、脳血管障害 69.8歳、全身疾患を有する者 66.9歳、リウマチ性疾患 67.7歳と高い。

70歳以上の障害者の多くは、脳血管障害および全身疾患を有する患者であり、全身管理を要し、治療内容によっては内科医との連携が必要な患者が多い。幸いにも、これら受診者の多くは、隣接する七日市病院からの紹介が多く、病診連携が確立しており、術前管理を十分に行うことで、治療がスムーズに行え、術後のケアもフォローされている。

また、平成 12年以降の受診者数をみると、全体の約 2/3が脳血管障害と全身疾患を有する患者で、この頃より急激な増加を示している。これは介護保険導入後、隣接する公立七日市病院が平成 13年に一般病棟の 60床に加え、療養型病床群 50床を増床したことに関係していると考えられる。特に療養型病床群を備える病院においては、歯科診療ができる設備(歯科)が必要であると感じる。

5. 今後の課題

障害者(児)歯科診療の充実と拡大

要介護者並びに行動管理を必要とする障害者(児)の場合、通常の診療より時間を要することが多い。1日に診られる患者数は限られているにもかかわらず受診患者数は年々増加しており、今のシステムでは限界があると思われる。継続的な管理の必要性からも、設備の充実、診療日の増設、スタッフの増員などを検討する必要がある。

当センター診療所の役割の拡大

受診者数や治療内容から鑑みると当センター診療所は地域の障害者(児)歯科診療の中心的な役割を担っているといえる。障害者(児)歯科診療をさらに充実していくために、歯科疾患の治療・予防・管理だけでなく、障害者(児)歯科診療に対応できる医療従事者の養成機関として活動していく必要性を感じる。多くの医療従事者に研修の場を提供し、将来的には、他の医療機関でも障害者(児)ならびに要介護者が安心して受診できるようにしていきたい。

地域に貢献

平成 15年度、富岡甘楽地区に、2,975人が身体障害者手帳の交付を受け、要介護認定者は、3,324人いる。現在、施設入所者に対しては、施設と歯科保健管理契約を結び、歯科健診や歯科衛生士による口腔ケア等を行っているが、今後は、在宅の要介護者および障害者(児)に対しても、歯科疾患に対するスクリーニングや、歯科かかりつけ医登録などを実践し、歯科保健の充実を図っていきたい。